

子育てコラム20
parenting column

子育ては楽しいこともあるけど悩みもたくさん。
そんなママのための役にたつアドバイス。

コミュニケーションの基本「あいさつ」

あいさつはいつから教えるものですかと聞かれることがよくあります。あいさつは基本的な生活習慣と同じで、生まれた時から始まっています。子どもが泣けば、親は声を掛け抱っこをする。これがあいさつの始まりで、教えていくものではなく自然と身に付いていくものです。あいさつはコミュニケーションの基本であり、お互いが気持ち良く生活するためには欠かせないものです。笑顔で「こんにちは」とあいさつをされたら、受け入れてくれているという気持ちになり安心感が芽生えます。

赤ちゃんは生後早い時期から「あー」「うー」などのクーイングを發します。その後「ばー」「ぶー」などの喃語なんごに変わり、1歳過ぎごろには意味のある初語が出ます。「はい」「ばいばい」など、あいさつを意味する単語も初語で多く聞かれます。私たちはその言葉に笑顔で返しています。親が笑顔で返してくれることは子どもにとって喜びです。親が小さい時から笑顔であいさつをしていると、子どもは自然と笑顔で返します。家族があいさつをし合っている様子もよく

見えています。子どもにとってうれしいことは、家族が笑顔であいさつや話しているところを見ることです。あいさつを見聞かしているうちに、あいさつは自然にするもので、どの場面でどのようなあいさつをするのかも分かってきます。

あいさつの基本は家族関係、信頼関係から培われます。日本のあいさつは、まず相手の存在を認め大切にしようとするところから発している文化です。子どもたちにあいさつの心を伝えていきましょう。そして毎日家族で顔を見ながらあいさつをして、子どもの心の中にしんどうがないかを、幾つになっても見てあげたいものです。



めぐみ保育園 園長

弘田 恵子

めぐみ保育園園長。22歳で助産師になり、4年間高知の総合病院産婦人科でさまざまな出産に立ち会う。26歳から大阪府立母子保健総合医療センターのNICUで、6年間未熟児や障害のある赤ちゃんのケアをし、その後堺市で母乳育児相談室を仲間と開設。19年前から高知市内の保育園で、日々子どもたちと楽しく暮らす。助産師、看護師、保育士、幼稚園教諭(二種)。

